

インドネシア日食レポート

O. H(1967/観望)

一部変えています、基本的に「1983年インドネシア皆既日食観測報告」からの転載です。

「チョット見インドネシア」

インドネシアへ日食を見に行こうと考えてから、テレビ・新聞等でインドネシアに関する情報が目に付く様になった。それらによると、インドネシアは非常に蒸し暑く、コレラ、マラリアの恐れがあり、車の運転は乱暴。さらに外国人が人身事故を起こしたなら、すぐに最寄りの警察に駆け込み保護してもらえ、さもなくば群集に殺されるおそれ有り等々非常に恐い情報が氾濫し、イササカ行くのがイヤになった時期もあった。しかし断固行く。入国手続きに手間どる筈との話で覚悟していたところ、「スラムット・マラム」(コンバンワ)で・係官もニコニコ、非常にスムーズ。着陸後一時間チョットでホテルの中。危ぶんでいたクーラーも立派に作動しており非常に快適、インドネシアは文明国だ。しかしここはジャカルタ、一国の首都ならば当然と気を引き締めて古都ジョクジャカルタへ。さすがにここのホテル(ゲストハウス)は少々悪かった。しかし清潔で衛生的。ここで働く若いオバサンのにこやかな笑顔。皆な親切。外へ出ればベチャ(輪タク)のオッサンが寄ってくる。雲助タクシー風を感じるが、実は全然。市内見物のガイドもしてくれる。インドネシアが好きになってきた。

ところで今回、私の旅行目的は三つあった。先ず第一は日食。これは成功。抜群にキレイ。第二はポロプドール遺跡見学。これも日食に先がけてすましてあった。仏教が世界宗教として北の日本へ来た同時期、南のジャワに伝播した事を思う。

で実は問題の第三!いささか年がいても無く恥かしいのだが、バリ島でバイクに乗ってアチコチ見物に回るとい事。運転が乱暴で、万一人をはねたら逃げるのみという御国柄。この歳で大丈夫だろうか、自分の反射神経、運動神経を思いやる。しかしここでも断固やる。若い者(学生三名を含む)四人と中年一人。計五台のバイクでバリ島ツーリングが始まった。時間と共に当地の運転事情が分かかってきた。確かに乱暴に見える運転も、実は互いに譲り合うという事をしている。信号の無い交叉点では気力で突っ切り、根性のある方が勝つと考えていたが、実は全車徐行をしており、実にうまく行く。こちらの人も仲々やるもんだと嬉しくなる。ただ犬が多く、フラフラ出てくるのにはまいった。以上で三つの目的を全て達成する事ができた訳だが、今回の旅行には仕事とはいえ、広電観光の方には多大のお世話になり、また身内のことながら、N隊長には苦勞を掛けっぱなしで本当に感謝しております。広電さん、N隊長、そして現地の方々本当に有難うございました。

ここで話かわって真面目な問題をもう一つ。実はバリにはポン引きが多い。それも日本語を使う。ということは日本人が、かなり彼等の世話になっていると見ざるを得まい。前大戦ではアジア太平洋地域の人々に、相当の迷惑をかけたと聞く。又現在の日本経済進出。かてて加えて先の買春ツアー問題。バリの海岸で、ホテルの電話で「バリの女性どうですか?」の声にふと考えた事である。



簡易ニューカーク・フィルターの 製作とコロナ撮影

1. はじめに

'81年のシベリア日食でミニコビーフィルムをベースとするニューカークフィルターを製作使用し、コロナ撮影を試みたのであるが、初步的ミスから、おもわしい写真が撮れず今回二度目の挑戦となった訳である。一応今回は、まずまずの写真も撮れたので、その写真掲載と同時に、その撮影方法及びフィルターの製作法について若干述べてみたい。

2. 方法

先ずフィルター製作の概略(詳しくは“シベリアの黒い太陽”参照)を述べる。

白ケント紙を図1の形に切り取り(1R₀で90度角、3.5R₀で0度とし、直線で結ぶ四枚羽セクター)、これを黒ラシャ紙の上におせ、プレーヤーを使用して回転させ、これをミニコビーフィルム装填のカメラで撮影し、そのネガフィルムをシャッター開口部に合わせて切断しそれをフィルターとした。この時の撮影状況は図2に、データは次の通りである。〈露出 F16, 2.5秒 : 現像コピナール 20℃ 5分 : 定着フジフィックス 20℃ 10分〉このネガフィルム(ニューカークフィルター)の濃度分布は図3にある。

次にこれを使用したコロナ撮影となる訳だが、

実際にはフィルム直前にフィルターを貼り付け、その中心と、カメラファインダーの中心とが一致する様にしなければならない。これが少々面倒ではあるが、これは日食前日ホテルで行なった。

3. 器材

コロナ撮影のための器材等は以下の通りである。なおバランス代わりにもう一台カメラを同架してノーマルなコロナ撮影をした。これもあけておく。

架台：TS65P型赤道儀

モータードライブ：TS式HD型

○ニューカーク撮影

レンズ：TS65P鏡筒(f=500mm)

カメラ：キャノンF1(MD付)

フィルム：コダクローム64

直接焦点撮影法で、 $\frac{1}{15}$ ~4s露出で21枚撮影

(写真1) $4^{\text{h}}29^{\text{m}}05^{\text{s}}\text{U.T. } \frac{1}{2}\text{s}$

○ノーマル撮影

レンズ：FD200mm+ケンコーMC7

(f=400mm)

カメラ：キャノンFX

フィルム：フジカラーHR100

F5.5×2, $\frac{1}{125}$ ~4s露出で14枚撮影

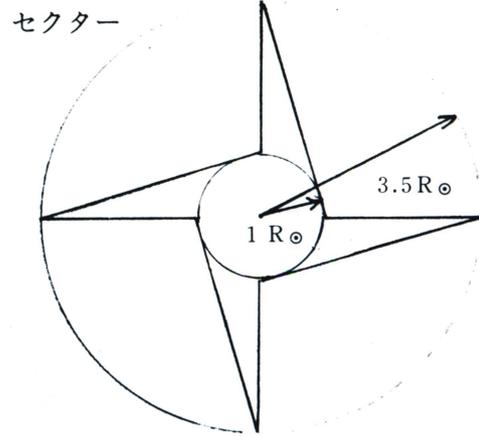
(写真2) $4^{\text{h}}30^{\text{m}}25^{\text{s}}$ U.T. 1s

4. 結果

2枚の写真を比較されたい。

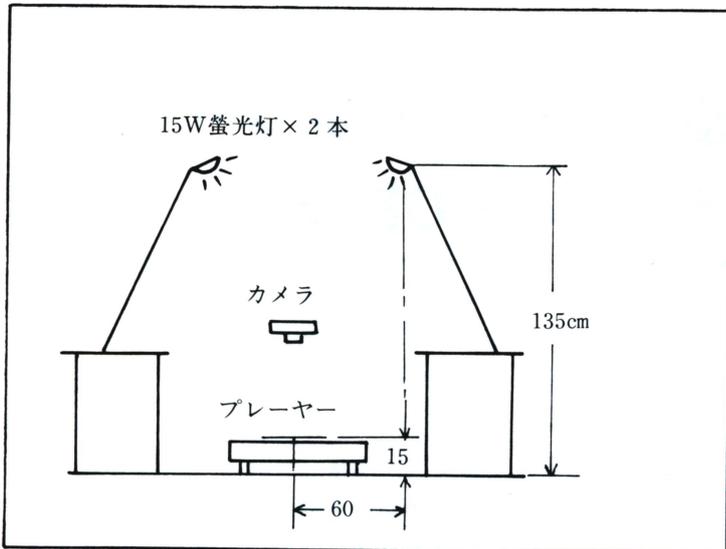
撮影結果を考えるに、内部コロナ側のニューカーク効果が小さい。もう少しフィルター濃度をあげた方がよいと思う。それにはセクターの形を考慮すべきであろう。

最後にフィルター製作に関し、濃度測定等シベリア日食以来、一方ならぬ御世話になった我がOB会の谷川君に感謝致します。

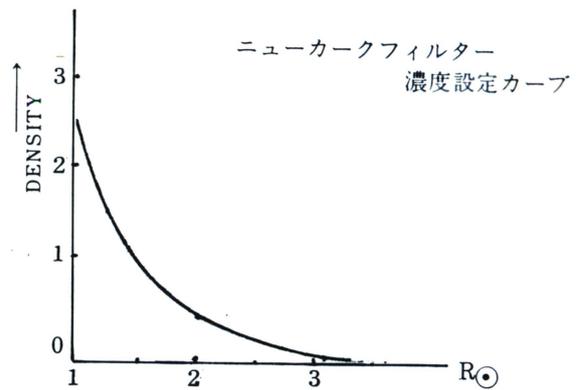


(図-1)

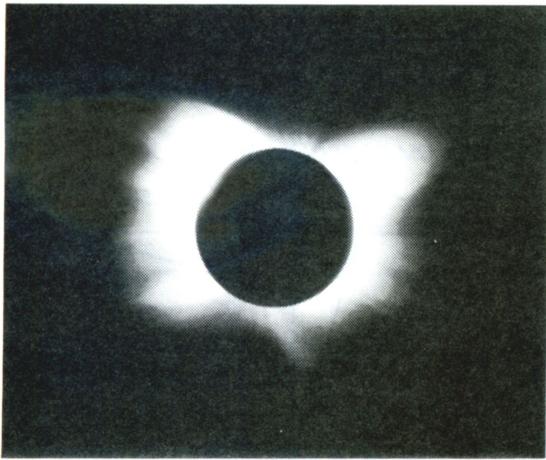
ニューカークフィルター撮影装置



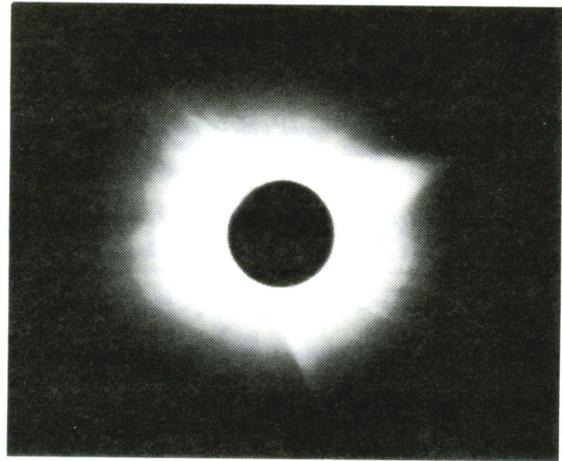
(図-2)



(図-3)



(写真 1)



(写真 2)

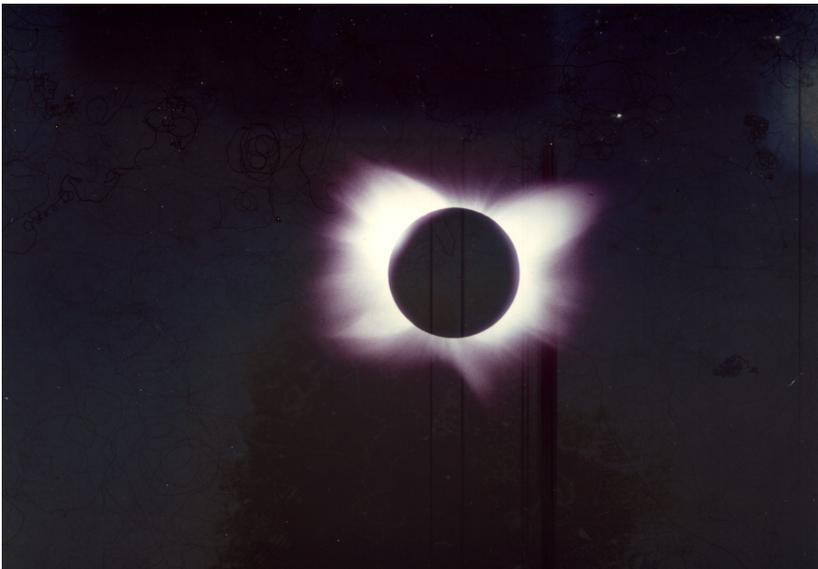
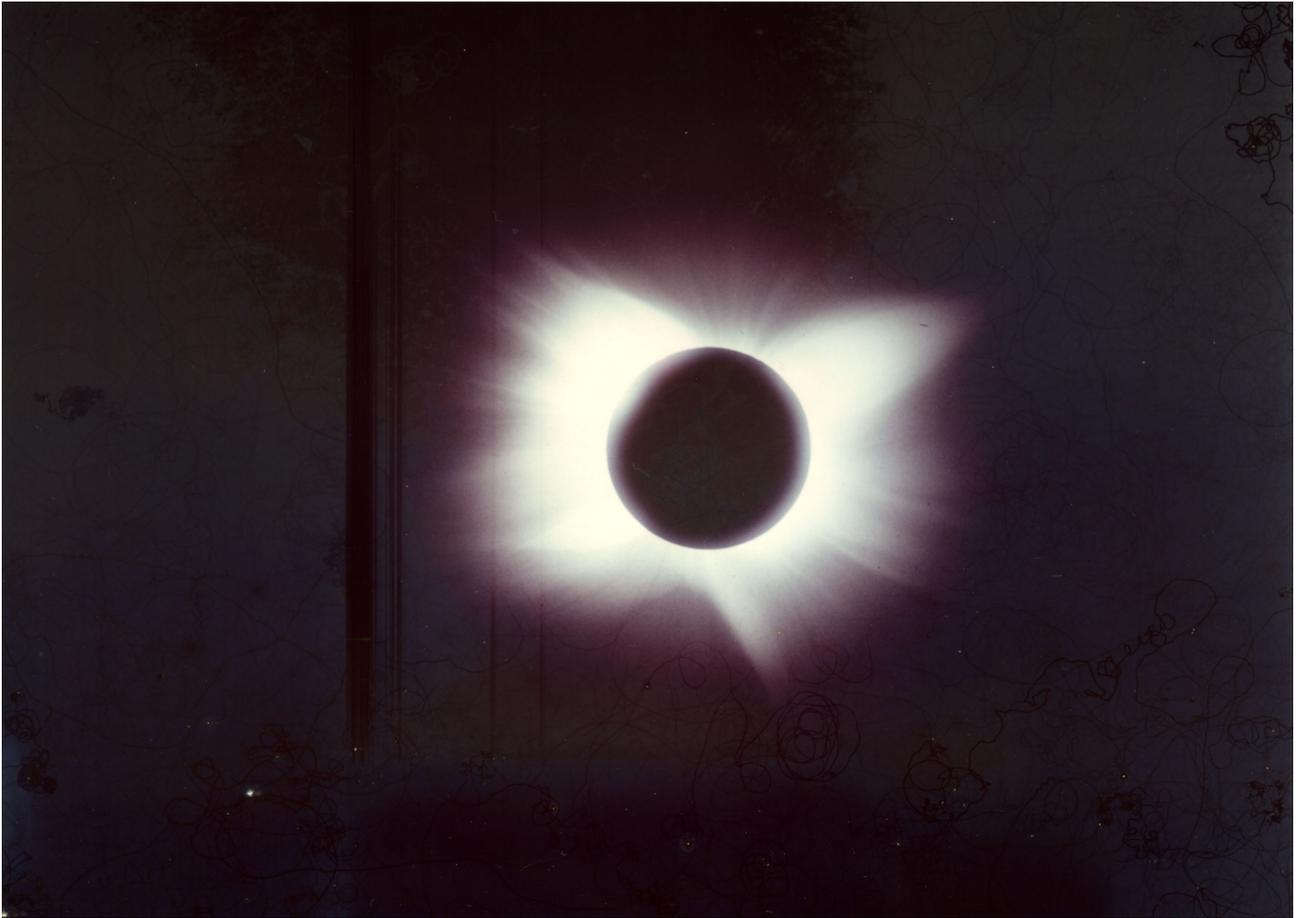


写真 1 カラー版



写真 2 カラー版



巻頭写真カラー版

簡易ニューカーク法

1983年6月11日4時29分12秒 (UT)

キャノン F1、TS65P 型 (65mm f=500mm)

コダクローム 64

露出時間 1 秒

(註) カラー版は3枚共に古い写真をスキャナーで読み込んだもので、ゴミがついたりして少々見苦しいのですがご容赦下さい。